

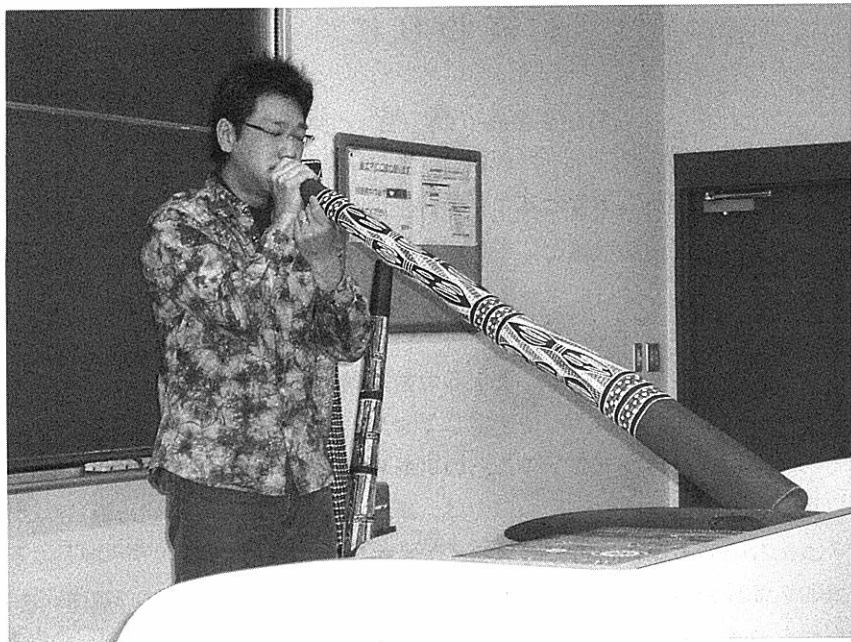
## 「オーストラリアを学ぶ」

国際教養学部 アジア学科 南出 眞助

追大プロジェクト科目「オーストラリアを学ぶ」(春学期、土・1)において、オーストラリア先住民であるアボリジナルの文化を直接経験する試みとして、伝統楽器ディジュリドゥのプロの奏者による生演奏と、同じく竹筒を利用したディジュリドゥの製作体験およびアボリジナルペインティングの製作体験ワークショップを、授業の一環に組み込んだ。そもそも「オーストラリアを学ぶ」は、本学オーストラリア研究所員である専任教員が中心となってリレー方式で行う授業であり、分野は地理・自然・歴史・文化・経済・社会・教育など多岐にわたっている。関西の私立大学でも他に類例をみない、特色ある講義科目であり、一般市民にも公開しているほか、「大学コンソーシアム大阪」認定科目として、他大学の受講生にも半年2単位の認定を行っている。

2008年度は、4月26日の授業を「オーストラリア先住民の生活と文化(民族楽器ディジュリドゥの生演奏を交えて)」と題して、国際教養学部の南出がアボリジナルの現状について概説し、引き続き、プロの奏者である三上賢治氏によるアボリジナル生活体験談とディジュリドゥの生演奏を行った。結果は予想通り大変好評であり、学生の感想としても、言葉に表現できないような不思議に穏やかな気持ちになったと述べるものが多かった。本来、アボリジナルは文字を持たない民族であり、彼らの知識体系は、口承神話や絵画、あるいは音楽・舞踊等の身体表現によって何万年も伝えられてきた。したがってそれらをより根源的に理解するためには、日本語や英語に変換された説明文を読むよりも、ノンヴァーバルに同じ体験を共有する方が、より直接的である。

そのような教育効果も期待して、7月12日の授業では「アボリジナル・アート体験教室」と題し、同じく三上氏と南出とのペアで、竹筒によるディジュリドゥ製作班と、絵の具の代用としてアクリルペインティングを用いたアート製作班とに分かれて作業を行った。講師の三上氏は製作作業の現地指導と同時に、アボリジナル・アートの意味や彼らの精神世界に関する解説を行った。参加した学生や一般市民にとっても貴重な体験になったようで、自分で作ったディジュリドゥから音が出た瞬間には、単に講義を一方向的に聴いて板書をノートするのは違った深い満足感に包まれたようであった。このように直接体験の機会を設定したことは、高い教育効果をもたらしたと確信している。



【ディジュリドゥ演奏 (三上賢治氏)】



【ディジュリドゥ/アボリジナル・アート製作ワークショップ】